

作品



海水浴場小景 (ゼラチンシルバープリント) (1929・昭和4年)



ホテルブクロ草 (ゼラチンシルバープリント) (1963・昭和38年)



S少年 (ゼラチンシルバープリント) (1927・昭和2年)



部屋 (ゼラチンシルバープリント) (1945年頃・昭和20年頃)



天気予報のある風景 (ゼラチンシルバープリント) (1931・昭和6年)

主な作品収蔵先／フランス写真協会、ハンブルク工芸美術館、サンタフェ美術館、東京都写真美術館、横浜美術館、鳥取県立博物館、島根県立美術館、米子市美術館など多数。

- 開館時間 9:00～16:00
- 休館日 毎週火曜日 年末年始
- 入館料 一般／300円 (中学生以下無料)  
団体／200円 (15名以上) 会員／無料

○ アクセス



■ 飛行機で

米子竜太郎空港からお車で約45km、約1時間。またはJR境線「米子空港駅」から「米子駅」乗り換えにてJR山陰本線「赤碕駅」下車 (以下、下記「鉄道/タクシーまたはバスで」をご参照ください)。

■ 車で

山陰道「赤碕中山」または「琴浦船上山」IC下車。国道9号など経由にて約10分。

□ 駐車場 琴浦町駐車場 (三度笠前広場) をご利用ください (大型バス不可)。

■ 鉄道/タクシーまたはバスで

JR山陰本線「赤碕駅」下車 (赤碕駅より徒歩約30分)。「赤碕駅」よりタクシーまたは琴浦町営バス 琴浦海岸線「赤碕地区公民館」停留所下車徒歩1分。

# 塩谷定好写真記念館

〒689-2501 鳥取県東伯郡琴浦町赤碕 1568  
☎0858-55-0120 🌐 <http://teiko.seeker.jp/>

NPO法人 塩谷定好フォトプロジェクト事務局  
☎0858-55-1790 ✉ [teiko1899@gmail.com](mailto:teiko1899@gmail.com)

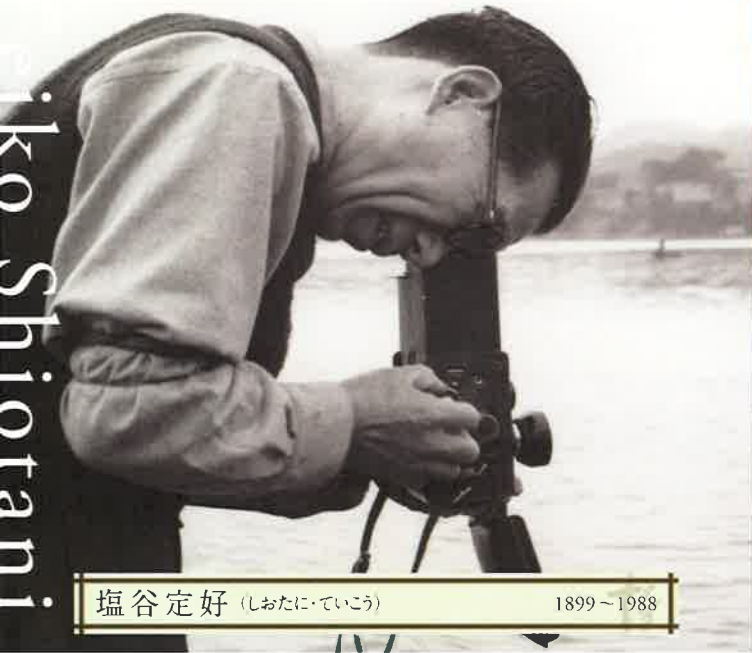
塩谷定好写真記念館は、定好の作品を常設展示すると共に、地域の文化的活動を支援し、町の活性化を図ることを目的としています。  
この記念館は、平成25年4月に塩谷家より定好生家の寄贈を受けたNPO法人塩谷定好フォトプロジェクトが中心となり、多くの皆様のご支援により公開に至りました。



## Shiotani Teiko Memorial Photo Gallery 塩谷定好写真記念館







生家 —  
塩谷定好  
写真記念館

塩谷定好の生家は、代々回船問屋を生業としており、その本宅兼事務所として明治40年頃に建てられたと伝えられています。建物は木造2階建て、1階の道路に面した美しい格子は瀟洒な仕上げで、当時の面影を残しています。



塩谷定好 (しおたに・ていこう) 1899~1988

本名「さだよし」。1899年(明治32年)、鳥取県東伯郡赤碕町(現琴浦町)生まれ。小学5年生の時にカメラを買ってもらい、20歳代で早くも我が国の芸術写真の草分け的存在として活躍した。愛用したのは、大正時代に一世を風靡した単玉レンズのカメラ「ヴェスト・ポケット・コダック」(通称ベス単)で、「ベス単のフードはずし」と称された軟調描写(ソフトフォーカス)がその作品の特徴。生涯にわたって生まれ育った故郷を愛し、山陰地方の自然を撮り続けた。

- 1919 (大正8年) 写真愛好会「ベストクラブ」を創設。
- 1926 (昭和元年) 「アサヒカメラ」創刊号第1回月例コンテストで《漁村》が1等を受賞。
- 1927 (昭和2年) 芸術写真研究会会員
- 1928 (昭和3年) 日本光画協会会員
- 1934 (昭和9年) 国際写真サロン招待員会員
- 1958 (昭和33年) 新協美術会会員
- 1975 (昭和50年) 『塩谷定好名作品集』が出版され、芸術写真見直しの気運を高める。
- 1979 (昭和54年) 欧州主要都市を巡回した「今日の日本の写真とその起源」展に出品。
- 1982 (昭和57年) 西ドイツ(当時)ケルン美術館の「フォトグラフィ 1922-1982」にてフォトキナ栄誉賞受賞。
- 1983 (昭和58年) 日本写真協会功労賞受賞。
- 1988 (昭和63年) アメリカ「ヒューストン・フォトフェスト」にて「塩谷定好展」開催。その後アメリカ国内7会場を巡回。
- 1988 (昭和63年) 死去。享年89歳。
- 2010 (平成22年) 琴浦町名誉町民の称号を受ける。



定好愛用のカメラ



大屋根の両側は、火災の類焼から家を守るために漆喰仕上げとなっており、庇の下には漆喰で塗り込めた三角形の「うだつ」がつけられています。2階の戸袋は漆喰仕上げ。当時の赤碕の富裕層の建物に見られる特徴で、潮や風雨に備えた造りにもなっています。



家に入ると吹き抜けの土間があり、奥には喫茶スペースが。お茶とともに、庭を眺めつご休憩いただけます。



2階の10畳の床は、違い棚が螺鈿仕上げとなっており、当時の塩谷家の羽振りの良さを表わしています。回船問屋の時代は商談に訪れた人々をもてなし、定好の時代は写真仲間を迎え、写真談義が交わされました。まさに「塩谷芸術写真」を育てたメッカとなったのです。



ギャラリーや各部屋で、定好の作品や愛用品だけでなく、回船問屋の時代から受け継がれた品々もお楽しみいただけます。

